

とりまとめ結果

資料7

地縁の希薄化

【近所(隣人)の交流の希薄化】
高齢者の孤立や認知症家族の支援、8050問題に対応するためには、近所の親切な心や目が必要であるため、今だからこそ、近所付き合いが重要である。
【町内会加入世帯数】
社会環境の変化で日々の生活が多忙を極める中、転入世帯が町内会に加入せず、加入世帯とのつながりが不足している。
【子ども会の団体数・会員数】
子ども会是指導者不足や活動のマンネリ化などの課題がある。 また、子ども会以外のコミュニティに参加している子どもが多いため、会員数の減少を招いている。
【町内会・子ども会会員数の減少】
加入しない人が増えている。 加入が任意なものはいらない。 会がなくなると地域のつながりが無くなってしまう。
【地域自治への意識の希薄さ】
自治の必要性や自らと地域とのつながりの理解ができていない人が多く、安易に地域組織を離れる人がいる。
【町内会加入世帯数の減少】
負担や手間から町内会を脱会した事例をよく聞くと、孤立防止の観点から、高齢者ほど町内会に加入してもらいたい。 情報交換の場や顔の見える関係づくりとして重要。

高齢者のみ世帯の増加

【家族のこと】
親族がおらず入院などの際に、保証人がいなかったり、要介護状態になったときに死亡後のことを財産含め誰に頼ればいいのかわからない人がいる。
【ひとり暮らしの高齢者世帯】
ニュータウン地区では、増加傾向にある。 歩行が難しく、買い物にいけない、ひとりでの入浴に不安がある、など、健康に対する不安を抱えている方は多くいる。
【自殺・不登校・ひきこもりの増加】
対策に向けた取組が必要。
【ごみの処理】
近所に家の外までごみが散乱している家がある。

担い手不足、負担の増加

【地域の担い手づくり】
スタッフの高齢化、なりたがる人が少ない。 コロナ禍後、ボランティアの考え方に変化があり、サロンでも、担い手不足により、団体の継続が難しい所もあると思う。
【地域活動の代表・役員の負担】
組織の代表者や役員は負担が大きく、活動には参加するが、役員はやらないという考えの人が増えると、活動がなくなっていくおそれがある。
【担い手不足】
担い手を必要とする団体と、担い手になれる方のマッチングができる橋渡しの役割を担う方が必要。 PTA総会や同窓会にアプローチするのはどうか。

その他

【移動手段の必要性】
買い物や通院が不自由な人の増加が懸念するため、地域の実情に応じた移動支援が必要。 バス停までも移動が難しい人のために、Door to doorの移動支援を整備すべき。
【子どもの居場所や学習支援】
支援を必要とする子どもに対する地域福祉活動を充実すべき。 地域で見守りができるとよい。
【認知症の方とその家族を支援する方法】
認知症の人口が増えていく中で認知症の独居の方や高齢夫婦世帯を支える体制が整っていない。
【災害対策がまだまだ行政任せになっていること】
一人ひとりの自助の力が低い。 BCPの作成はしていても実際に運用できるかが不安。 事業者と地域の連携の強化が必要。
【地域福祉の必要性】
地域福祉が充実し、地域住民の理解が進むと住みよい地域・まちに直結する。 地域福祉の必要性に目が向かなくなっている。 地域福祉の必要性を改めて考える機会が必要。
【再犯者の支援】
出所後、住居や職がなく、生活に困窮すると再犯する可能性が高い。 出所者に関する相談を受け付けてもらえる体制や更生保護施設の機能強化が必要。
【孤独・孤立の増加】
eスポーツなど、世代間交流ができるイベント等を開催してはどうか。